



## 内閣総理大臣賞(1件)

### 内閣総理大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

**株式会社ウジェスーパー  
株式会社ウジェクリーンサービス**

所在地

**宮城県登米市**

受賞テーマ

**『エコーガニック with ノーマライゼーション』  
食品スーパーが提案する環境ループ事業**

受賞者（ウジェスーパー）は、日本有数の米どころ登米市に本拠地を置き宮城県内に 30 店舗を展開する、地産地消を積極的に取り組んでいる地域密着型の食品スーパーである。同社の障がい者特例子会社として、平成 18 年 3 月に設立したのが受賞者（ウジェクリーンサービス）である。

スーパーでは毎日大量の廃棄物が発生するが、野菜や果物などをクリーンサービスで有機質肥料にしている。地元の農家・醸造会社と連携して、この肥料を使用した米を作り、さらにその米で作った高品質の味噌を作るなど、廃棄物を付加価値のより高いものに変える食品リサイクル・ループを構築している。リサイクル・ループは、再生利用事業計画の大臣認定を受けており、食品リサイクル率は 65.2%（平成 25 年度）を達成している。

作られた米や味噌は、受賞者が全量買い取り、それらを自らプライベートブランド商品として販売することによって、リサイクル・ループが持続するように取り組んでいる。地域密着型という強みを生かし、地元の会社と一緒に取り組むことによるリサイクル・ループを通じた地域活性化に貢献し、これらの活動を障がい者と一緒に行うことでノーマライゼーションを推進している。

受賞者は元々、障がい者雇用と共に分別リサイクルに取り組み始め、営業活動を通して排出される廃棄物を少なくする努力をしていたが、更に環境に優しい廃棄物処理の方法を探していたところ、24 時間で野菜・果物の残さを完熟発酵させて有機質肥料をつくる装置があることを知った。この装置の特徴として、作業工程が【生ゴミを入れる】→【できあがった肥料を取り出す】と簡素化されていて、障がい者でも作業が可能であった。この装置を取得し、つくった有機質肥料は、無限にリサイクルができるようにという想いを込めて『無限』と名づけて商標登録した。



食品残さを収集運搬するパッカー車（左）、食品残さに異物が混入していないか確認（中）、有機質肥料『無限』（右）

この『無限』を使い、豊かな登米耕土の力で、地域と共に米を通じた地域おこし・登米のブランド力向上に活かしたいとの思いから、登米ブランドの構築に精力的であった登米市の市長に相談したところ、地元で代々続いている専業農家を紹介してもらった。

始めは生産者も化学肥料や農薬の使用を抑えた米づくりに対して心配をしていたが、何度も打ち合わせを行ない、有機質肥料『無限』を使用した稲作栽培が始まった。『無限』で作られたお米は、地元登米市の水田で丁寧を作り、登米が元気になるようにという想いを込め、「登米」の地名にちなんだ『無限のぼり米』と名づけた。この『無限のぼり米』は、受賞者が全量買い取り、販売している。

平成 20 年からは、地元の石越醸造と連携して無限のぼり米を 100%使用した純米吟醸酒を造り、平成 21 年 3 月全店舗にて限定販売を開始した。このお酒を通して登米に恋して欲しいとの想いを込めて『恋のぼり』と名づけた（期間限定生産）。

平成 21 年 12 月からは、同じく地元のヤマカノ醸造と連携して無限のぼり米 100%と登米市中田町産特別栽培大豆を使用した十割麹味噌『夢のぼり』の仕込みに着手し、販売している。



『無限のぼり米』



『恋のぼり』



『夢のぼり』

また、『かだっぱり』というプライベートブランドを作った。かだっぱりとは登米の方言で良い意味の“頑固者”のことである。有機質肥料『無限』を使用して野菜を栽培・収穫し、それらを全量買い取り、スーパー全店舗にて『無限かだっぱり』として販売している。

平成 21 年 3 月からは、障がい者自らが田畑を耕して有機質肥料無限を使用し無農薬・無化学肥料にて栽培する『無限てるてるファーム』を始めた。天日干しの稲作や季節の野菜づくりを行なっている。

平成 26 年からは、東京に本社があるカミツレ研究所からの委託によりカモミールの栽培を開始した。カモミールは、農薬や化学肥料を使用せず、天日乾燥させている。

他に、レジ袋有料化、販売期限や消費期限の近づいている商品を独自のウジエコシールを貼って値引きのお知らせ、店舗から排出されるダンボール、紙類、廃食油、魚あら、生肉くず等を分別してリサイクルや飼料化。

また、登米市と連携し廃食油を店頭で回収し障害者施設にて BDF 化する取組を始めている。



カモミール栽培



ウジエコシール